

**「王とサーカス」 米澤 穂信 著 東京創元社 2015年7月発行**

好きな作家の1人である米澤穂信のミステリー小説、「王とサーカス」を紹介します。

主人公は太刀洗万智という女性で、フリーのジャーナリストとして働いています。シリーズというほどたくさん本が出ているわけではないのですが、同じ主人公の他の物語もありますので、そちらもおすすめです。ただ、他の本を読んでいなければこの本が楽しめないということはありません。

主人公が成り行きでネパールのカトマンズに来るところから物語は始まります。始めの方は旅行記のようで、旅行を追体験させられるような内容になっています。これはこれで面白く、アジア旅行に興味のある人におすすめです。

中盤にネパール国内で王族の殺人事件が起き、ここから物語が一気に動き出します。文字通り主人公が動き出し、混乱する社会のなかで必死に自分のできること、すべきことを全うしようとします。ミステリーなので、真相が明らかになるところが物語のクライマックスではありますが、それまでも主人公が自分の行動に迷いながらも進んでいく、前に進むしかない様子は共感できるところが多く、心に深く残っています。自分の仕事は、考え得るこれだけの犠牲を払ってまでする価値があることなのか、そこまでの覚悟が自分にはあるのか、と考えさせられます。単なるミステリーでは片付けられない小説です。

たくさん賞も取っている本なので、今更自分が推薦する必要もないのですが、これから社会に出て働き始めるみなさんに推薦する本を考えた時にこの本が浮かび、自分の知っている他のどの本よりも適切な気がしたので今回紹介させていただきました。まだ読んだことのない人は是非読んでみてください。